

#### 4-13 房総半島南東沖の三重会合点東側の地震活動について

##### Seismic Activity for the east of the triple junction southeastern off the Boso peninsula

防災科学技術研究所

National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

2004年7月下旬、房総半島南東沖の三重会合点付近の北緯33.0度、東経142.1度付近を震源域とする、やや活発な群発地震活動があった。

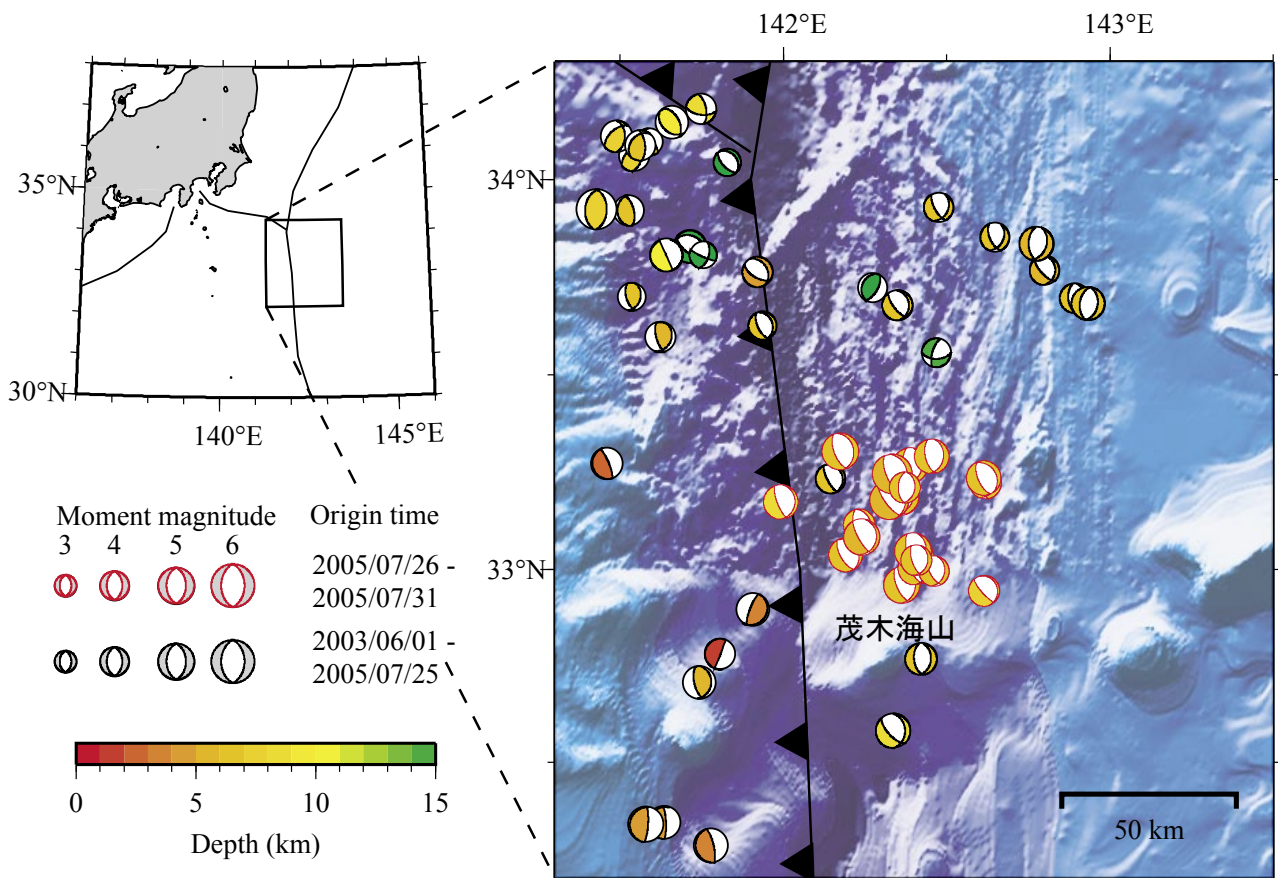
これらの地震について、防災科研F-netを用いたセントロイドモーメントテンソル解析<sup>1)</sup>を行い、震源位置およびモーメントテンソル解を求めた。モーメントテンソル解はいずれも正断層型で、震源は海溝軸の東側であった(第1図)。震源の深さは5km程度であった。さらに分布域は海底地形から推定される地塁・地溝構造の分布域とよく一致し、今回の活動域の南限には茂木海山が位置する。海溝軸東側で発生する正断層型の地震は、2003年以降たびたび観測されているが、今回の群発活動はこれまでの活動域とは重ならない位置で発生した。

今回の地震活動は、アウターライズで見られる地塁・地溝構造の形成に関する地震活動と考えられる。

(伊藤喜宏)

#### 参 考 文 献

- 1) Ito et al., 2005, Spatial distribution of centroid moment tensor solutions for the 2004 off Kii peninsula earthquakes, *Earth Planets Space*, **57**, 351–356.



第1図 房総半島南東沖の三重会合点付近のモーメントテンソル解

2003年6月から2005年7月25日までに発生した地震のモーメントテンソル解の節面を黒、2005年7月26日以降に発生した地震のモーメントテンソル解の節面を赤で示す。

Fig.1 Spatial distribution of moment tensor solutions around the triple junction southeastern off the Boso peninsula. The moment tensor solutions of earthquakes occurred from June 2003 to 25 July, 2005 and that occurred from 26 July, 2005 were indicated by focal spheres with black and red nodal planes.